

記事内容

- ☆ 2013 平和行動 in 広島・in 長崎
- ☆ ネット 21 「尾瀬の自然に学ぶ夏休み自然体験」
「山の学校 in としがわ」
- ☆ 9月はメンタルヘルスマ月間 / 9月の行動日程
- ☆ あけぼのビル

2013平和行動 in広島・in長崎

～核兵器廃絶と世界の恒久平和の実現を求めて～



in 広島



in 長崎

in 広島

8月4日～6日にて、構成組織・地域協議会からの参加者による埼玉派遣団13名は、被爆から68回目の夏を迎えた広島を訪れた。初日は、原爆ドームや各施設の見学、また折り鶴の献納などを行なった。

2日目は、原爆投下時に運行中で被爆するも奇跡的に残り、未だに現役で活躍している路面電車に乗り込み、広島市内を巡りながら当時の状況について学んだ。また、午後は平和集会に参加し、被爆者団体代表の坪井さんの被爆体験談と人生観のお話に、集会参加者全員が感銘を受けていた。

最終日の朝、平和記念式典に全国から集まった仲間と参列し、鎮魂の思いとともに平和の尊さ、そして核兵器のもたらす凄惨さを改めて確認した。我が国は、4月の核不拡散条約（NPT）再検討会議の準備委員会で、核兵器の非人道性を訴える共同声明に賛同していない。唯一の被爆国として、世界に発信すべき立場であることを再認識し、早期に加わることを願うとともに、今なお続く醜い争いが世界からなくなることを願った平和行動であった。

in 長崎

8月8日～10日に、「連合平和行動in長崎」が開催され、連合埼玉から小林会長をはじめ13名が参加した。

8日は、連合主催の「2013平和長崎集会」に参加し、今となっては数少ない被爆体験者、奥村アヤコさんの被爆当時の貴重な話を聞いた。長崎に原爆が投下された8月9日は、「長崎原爆犠牲者慰霊平和式典」に参加し、午後からは爆心地公園にて連合長崎の皆さんにより、被爆当時の遺品や石碑の説明を受けながら散策する「ピースウォーク」、夕方には浦上川の「万灯流し」に参加した。いずれも原爆投下による悲惨な状況や人々の悲しみを直接肌で感じ、二度と戦争をしてはいけないうの思いを強くした。

特に式典で、長崎市の田上市長より『今年4月にジュネーブで開催された核不拡散条約の準備委員会に提出された核兵器の非人道性を訴える共同声明に日本政府は署名せず、二度と世界の誰にも被爆の経験をさせないという被爆国の原点に反する』と、安倍総理を目の前に訴えていたのが印象的だった。

日程		in 広島	参加者
1日目(8/4)	<p>■「ピースウォーク①」(連合埼玉主催) 時間 15:40~18:00 会場 慰霊碑めぐり(原爆ドーム・平和公園モニュメント)</p>		太田 正貴 (JAM埼玉/リズム時計労働組合本社支部) 松本 慶子 (情報労連/NTT労働組合北関東総支部) 芦沢 利枝 (情報労連/NTT労働組合北関東総支部さいたま分会) 鴫田 和典 (運輸労連/熊谷通運労働組合) 平田 直哉 (運輸労連/日通埼玉運輸労働組合) 成田 信吾 (さいたま地域協議会/埼玉交通運輸労働組合埼玉交通大宮支部) 佐々木政雄 (川口・戸田・蕨地域協議会/NTT労働組合北関東総支部川口分会) 渡辺 吉行 (県央地域協議会/日本フェルト労働組合) 小川紘一郎 (熊谷・深谷・寄居地域協議会/太平洋セメント労働組合熊谷支部) 国本 典芳 (秩父地域協議会/JF労組秩父・本庄支部) 佐々木泰平 (連合埼玉青年委員会/JF労組埼玉連協)
2日目(8/5)	<p>■「ピースウォーク②」(連合埼玉主催) 時間 9:00~11:30 会場 市内中心部</p> <p>■「被爆路面電車乗車学習会」(連合主催) 時間 13:30~15:00 会場 広島電鉄広島駅前(広島駅~広島港~原爆ドーム前)</p> <p>■「連合2013平和広島集会」 時間 17:00~19:20 会場 上野学園ホール</p> <p>■「ピース・キャンドル」(黙とうの実施) 時間 20:00~20:30</p>		榎本 友子 (連合埼玉女性委員会/自治労桶川市職労) 増田 貴也 (連合埼玉副事務局長)
3日目(8/6)	<p>■「原爆死没者慰霊式・平和祈念式」(広島市主催) 時間 8:00~ 会場 広島市平和記念公園 原爆慰霊碑前</p>		



被爆路面電車乗車学習会を行なった路面電車



太田正貴

広島に世界最初の核兵器が投下され35万都市の大半が壊滅的状况になってから68年を迎えます。惨状は記念館を含め多数に渡り残されていますが、この事を引き継ぐ人が減少していると感じました。祈念式典当日「平和への誓い」では「大切なバトンをつなぐために…」と読み上げられました。「ヒロシマ」の事実を忘れず再発させないためにも私達が次世代につないでいく事が必要と改めて感じました。



芦沢利枝

たった一発の原爆は、投下直後から今日までに28万7千名の尊い人命を奪った。そして、68年経った今もお、後障害で苦しんでいる多くの被爆者がいる。偏見や差別で苦しむ2世、3世がいる。私たちは、被爆者の苦悩をどれほど理解していたらどうか、考えることがあったらどうか。自分に問いかける貴重な機会であった。被災者の高齢化が進む中、原爆によってもたらされた悲劇を、後世にしっかり語り継ぐ事が私たちの役目だ。



松本慶子

何でもない日常生活が一瞬のうちに奪われて68年。初めて訪れたヒロシマ。教科書で、写真で、テレビで何度となく目にしてきた原爆ドーム。実物を前にして言葉を失う。『戦争』という名のもとで、決して赦されることではない、まして二度とあってはならない『原爆投下』。平和祈念式典に参加し、被爆国の国民として核兵器の廃絶を国際社会へ訴え続けるとともに、核兵器は「絶対悪」の思いを次代に語り継ぐことの重要性を強く感じた。



平田直哉

広島に来て、見て聴いて改めて「日本人は非核化を主張していかなければならない」という事を感じさせられました。同時に私の娘達は、歴史の授業以外で、この事実に触れ、考案する機会があるのだろうか?と考えさせられました。次世代の人達が間違った道に進まぬよう私はまず家族を一度、広島に連れて来て、自分の感じた事を一緒に体感してほしいと思いました。



鴫田和典

『戦争は良くない!』とは子供の頃から教えられてきましたが、そんな言葉が軽んじるかのように今回参加し経験した事はとてつもなく重く、原爆によって被爆した人や建物、そして原爆の威力は筆舌にしがたく、実際に起こった出来事を現地でも学習した事は、これからも後世に伝えると同時に絶対に風化させてはいけなくと実感しました。



佐々木政雄

初日の「慰霊碑めぐり」で原爆ドームを目の当たりにし、あまりの生々しさに圧倒されました。原爆の凄惨な状況が実物大で迫ってきたからです。戦時中とはいえ、あまりに無慈悲で無差別に人の命を奪った行為に肌寒さと底知れぬ憤りを感じました。このたびの平和行動参加で私を感じた衝撃と新たな事実は、悲惨な史実としてしか理解していなかった広島の実態を、真摯に受け止めていただけたものでした。



成田信吾

私の広島のイメージはお好み焼き、そして大好物の牡蠣でした。それが広島に立って、あの原爆ドームを目にした時一瞬にして多くの人々が亡くなり、多くの人々が後遺症に苦しんでいる、そのことを考えると自然と涙があふれてきました。おそらく、参加した皆さんも同じ思いだったと思います。「いかなる戦争も絶対にしてはいけない」この事を全世界に向けてみんなでアピールしましょう。



渡辺吉行

太平洋戦争、そして米国による昭和20年8月6日の広島への原子爆弾投下、もちろん歴史で必ず習う近代戦争の悲劇であって、実際にこの平和行動に参加する前も少しは理解していたつもりでした。しかし、それは本でいうならば目次を見ていただけであって、本文にあたる内容は少しも解っていなかったのである。平和資料館の資料、被爆体験証言、平和祈念式に出席して得た内容を一人でも多くの仲間に伝えて行きたいと思いました。



~男女平等参画トップ宣言~

運輸産業とは女性の進出しにくい職場ではあるが、労働組合を通じ参画しやすい職場に転換の時期であると考えている。ディーセントワークの確立を進め格差社会の無い産業を目指していきたいと思います。

全日本運輸産業労働組合埼玉県連合会 執行委員長 牧野 智一



小川 紘一郎

今回平和行動に参加してみて、自分が小学校の修学旅行で訪れた時よりも、大勢の海外の方が平和公園を歩いており、日本だけではなく世界的に平和に対する意識が高くなっていて感じた。逆に日本は、被爆経験者や戦争の経験者が少なくなっている状況であり、今後、戦争の悲惨さを語り継いでいく為に、平和行動への若年層の参加や、小中学校で平和授業を取り入れるなど、平和を学ぶ環境作りが重要だと感じた。



国本典芳

終戦から68年、私自身は約25年ぶりに広島を訪問し、平和集会、ピースウォーク、被爆体験証言などに参加させていただきました。また、今回、今でも現役で働いているという被爆路面電車にも乗せていただきました。この3日間での経験を、今後の活動につなげていきたいです。



折り鶴献納



2013平和広島集会



佐々木泰平

「2013平和広島集会」では、全国から多くの方が集まり、その中でも若者の多さに驚きました。戦争を知らない私たち若者の中には、「この悲劇を知らなければならない。二度と繰り返してはならない」等、使命感をもっている方も多くいると感じました。私自身も、改めて「平和な世界」というものを考えさせられ、「二度と戦争を起こしてはならない」と強く思うと共に、同世代である戦争を知らない若い方々に伝えていく必要を感じました。



榎本友子

女性委員会の平和活動の一つである折り鶴作りに家族、同僚の賛同を得て取り組んだ。折り上げた2,000羽の鶴は皆の平和への願いと共に今回平和公園に献納することができた。私は保育士として長年絵本や紙芝居を通して、子どもたちに本当にあった話、そして平和の大切さを伝えてきたが、今後も後輩達にもしっかり引き継ぎ、続けていくことを私の小さな平和行動としていくつもりだ。

日程		in 長崎	参加者
1日目(8/8)	<p>■「2013平和長崎集会」</p> <p>時間 15:00~18:00</p> <p>会場 長崎県立総合体育館メインアリーナ</p> <p>内容 【第一部】2015NPT再検討会議に向けて 基調講演「2015NPT再検討会議に向けた課題と対応(仮題)」</p> <p>講師：広瀬訓長崎大学核兵器廃絶研究センター副センター長</p> <p>【第二部】次世代への継承 被爆者の訴え 奥村アヤコ氏(公財)長崎平和推進協会継承部会</p>		<p>小林 直哉 (連合埼玉埼玉会長)</p> <p>大塚 健司 (自動車総連/ソーシン労働組合)</p> <p>田村 英男 (JAM埼玉/日本鑄鉄管労働組合)</p> <p>山田 真人 (情報労連/ウインテック労働組合)</p> <p>石井 光晶 (情報労連/ウインテック労働組合)</p> <p>児玉 深雪 (川越・西入間地域協議会/丸広労働組合)</p> <p>西野 友明 (比企地域協議会/全ヤオコー労働組合)</p> <p>池田 雅史 (西部第四地域協議会/八千代工業労働組合)</p> <p>青木 秀一 (朝霞・東入間地域協議会/日本梱包運輸倉庫労働組合)</p> <p>野口 賢二 (東部地域協議会/NTT労働組合北関東総支部越谷分会)</p> <p>田島 栄作 (北埼玉地域協議会/曙ブレーキ工業労働組合羽生支部)</p> <p>中洞 成人 (連合埼玉青年委員会/MMCスーパーアロイ労働組合)</p> <p>小穴真一郎 (連合埼玉副事務局長)</p>
2日目(8/9)	<p>■長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典(長崎市主催)</p> <p>時間 10:45~12:00</p> <p>会場 長崎平和公園</p> <p>■「ピースウォーク」(慰霊碑巡り)</p> <p>時間 14:00~16:30</p> <p>会場 原爆落下中心地公園・長崎市平和公園</p> <p>■「万灯流し」(原爆殉難者慰霊奉賛会主催・連合協賛)</p> <p>時間 19:00~20:20</p> <p>会場 浦上川、長崎市宮陸上競技場</p>		



小林直哉

8月9日午前11時2分、長崎の鐘が平和祈念式典会場に響き渡った。思わず上空を見上げ、68年前の閃光と惨状に想いをはせた。今年の長崎平和宣言は、日本政府に被爆国としての原点に戻ることを強く求めた。4月の核拡散防止条約再検討会議で、日本政府は「核兵器の非人道性を訴える共同声明」に署名せず世界の期待を裏切った。「いかなる状況においても核兵器を使うべきではない」という文言が受け入れられない理由だが、これは核兵器の使用を状況によっては認める姿勢であり、被爆国の原点に反する。参加した13名は、被爆者体験談や爆心地などのピースウォークを通じ、不戦と核廃絶の誓いを強く心に刻んだ平和行動となった。



参加者のみなさんと万灯流し



～男女平等参画トップ宣言～

私たちの組織は、交通運輸産業を支える労働力で成り立っています。最近では、ドライバーや教習指導員という専門職にも女性の進出が多く見られます。これからも男女が働きやすい職場の確立に力を入れてまいります。

埼玉交通運輸労働組合 執行委員長 牧 邦夫



大塚健司

長崎への原爆投下から68年が経ち、平和集会では核兵器廃絶と世界の恒久平和の実現を求めて演説がありました。核兵器が増えようとしている現実やNPT問題を聞きました。被害にあった女性からの実体験は、当時の悲惨な風景が想像できるほどの生々しい内容でした。原爆の被害を受け、亡くなった方々の為にも、核兵器はもとより戦争がなくなり、そして世界中の人々が尊重し合い平和な世の中になりますよう慰霊式典で祈りました。



田村英男

長崎に向かう飛行機の中で、窓際に座っていた私の目に長崎の町並みが入って来ました。68年前の8月9日11時2分に、この町で起こった事を思うと寂しい気持ちで胸が一杯になりました。長崎に到着し平和行動で被爆体験者のお話や原爆資料館を見学する事ができ、1日でも早く核兵器が、この世からなくなってほしいと思いました。ぜひ機会があれば大勢の方に平和行動に参加して頂き、原爆の悲惨さを知ってほしいです。



山田真人

長崎の3日間を過ごして被爆者の実際の声や原爆投下による被害状況の惨劇を見て、何気なく過ごしていた平和な日々がどれだけ大切なものか感じました。平和に対する意識を自分の生活の中でも少し考えてみようかと思いました。また、被爆者から政治家への平和に対するメッセージは強烈なものでした。今後は各党の核廃絶の展望についても注目していきたいと思います。



石井光晶

古くから海外文化の窓口として発展し、諸外国との交流を通じて豊かな文化をはぐくんできた長崎。今では町並みは整備された美しい街に68年前の8月9日11時2分に原子爆弾が投下され、人々が暮らしていた街は一瞬で地獄と化し7万4千人もの人々が命を奪われました。こんな惨い、卑劣な核爆弾を2回も投下された日本だからこそ、もっとも世界へ核兵器のない平和な世界を訴えて行く事が本当に大事な事だと思いました。被爆者は高齢の為、年々少なくなっていく中、私たちは被爆者の声を直接聞くことのできる最後の世代としても訴えていく一人にならなくてはならないと思いました。



2013平和長崎集会



原爆落下中心地碑の前で説明を受ける



児玉深雪

2013平和行動in長崎に参加させていただき、その中で感じたのが「平和の大切さ」でした。普段あまり考える事もせず、当たり前と思っていたこの「平和」がいかに尊いものか改めて感じました。68年経ち、戦争体験者も少なくなり、直接話を聞ける機会は貴重なものとなっています。これからもこういった行動を通じ、次の世代へ語り継ぎ、平和について考える機会を持つことが大事なのだと思いました。



西野友明

改めて平和への思いと原爆投下という事の重大さを感じました。先日、テレビで被爆体験者の方が、アメリカの「戦争を終わらせるために原爆投下した」という言葉を真っ向から否定されていました。あの時、日本はすでに戦争を続ける余力は無く、まさに終戦へ向かっていたはず。なぜ、原爆投下が必要だったのか。疑問です。唯一の被爆国として、これからも訴え続けなければいけないことは確実にある。そう感じた3日間でした。



池田雅史

ご親族にとっても、大事な日であり原爆死没者搭載者数162,083人と大勢の犠牲者を出したことの重大さをヒシヒシと感じました。式辞でも市議会議長が話されていたが、「核兵器のない平和な世界」の実現への決意を新たにしなければならぬと力強く訴えていました。その思いは、我々も長崎の方々同様に後世に伝え続けることが、「核兵器のない平和な世界」の実現に繋がると感じます。



青木秀一

改めて戦争の悲惨さや、核兵器の恐ろしさを実感しました。68年前の出来事なのに、今もなお、苦しみや悲しみに耐え忍んでいる方々の体験談はとても印象に残りました。中でも今日と同じ暑い夏日に、家族全員の命を一瞬のうちに奪ったあの原子爆弾の水が欲しくて脂の浮く水を飲まざるを得なければならない状況！今回見聞きしてきた事を今後、私自身も次世代につなげ、核兵器の無い世界・戦争のない世界を願います。



野口賢二

被爆者の訴えで奥村アヤ子さんの被爆体験を聴く事ができました。奥村さんは、原爆が爆発した際、柿木の下で遊んでいた閃光を見た瞬間伏せた為、助かったそうです。爆発後、周りを見渡すと家も建物等破壊され、爆心地から1km以内は人も家も何もかも消えてしまったという事でした。現在、被爆者も高齢化し被爆体験継承を若い世代の高校生が平和大使として1万人の署名活動を展開し国際社会に「核兵器の廃絶と世界の恒久平和を求める被爆地長崎の願い」を国連へ訴えていく行動をしっかりと語り、平和の大切さ、被爆者へのいじめ、差別が二度と繰り返してはいけないと痛感しました。



田島栄作

長崎の平和行動へは初めての参加でした。まず、平和集会を見て驚いたのは全国の高校生が本当に熱心に活動を率先垂範している事でした。若い世代が毎年、後輩にその役を引き継ぎ、それぞれの世代で工夫しながら自分たちのものに行っているところなど頭の下がる思いでした。語り部が減っていく中で若い世代がサポートして活動を進めていくことは、ある意味理想的な姿であり、未来に伝える形ができあがっていると感じました。また、夕刻の万灯流しは沈みゆく夕陽と川面に映る灯籠のコントラストが幻想的で心から祈りを込められる時間でした。



中洞成人

今回、長崎での平和行動を通じて始めて戦争、原爆の恐ろしさを身近に感じました。初日に行われた平和集会での、被爆体験者の生の体験談は、普段聞けるものでなく、とてもリアルで原爆の恐ろしさに衝撃を受けました。また、被爆体験者の方々の高齢化が進み、戦争の恐ろしさを知らない世代にどのように今後伝えていくかが課題だと言う事、「長崎を最後の原爆地に」と言う言葉がいまでも、強く心に残っています。今後、自分達が、後世にこの悲惨な出来事を二度と起きてはならないという事を、原爆の恐ろしさと共に、仲間にも、そして、後世にも伝えていければと思いました。



～男女平等参画トップ宣言～

私たちJR総連は、安全・健康・働きやすい職場を創り出すために日々取り組んでいます。今後も、男性、女性共に働きやすい職場を創り出すために行動していきます。

JR総連埼玉県協議会 議長 西島 光昭

ネット21運動 「尾瀬の自然に学ぶ、夏休み自然体験2013」

尾瀬の自然に触れ、自然環境の保護・保全の大切さを学ぶ機会として、毎年子どもの夏休みの時期に併せて開催しており、本年は7月28日(日)・29日(月)に開催しました。

集合後の鳩待山荘での昼食中に、強い雨が急に降り出し、全員カレーライスのスプーンが一瞬止まりましたが、「尾瀬に雨はつきもの!」との一声にみな納得。出発時は小雨となり、樹木や花、トンボなど観察することができました。また夕食後には、小雨の合間に蛍も観察することができ、子どもたちは大喜びでした。

2日目は、あいにくの雨でカッパ着用での出発となりましたが、全員自力で無事ゴールできました。

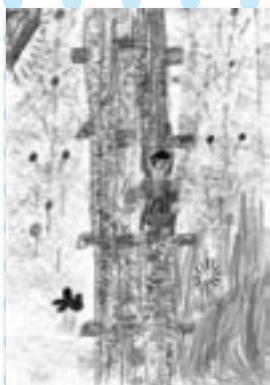
今回の参加者は、スタッフを含め8名と例年より少なかったですが、その分、全員が家族のように楽しく自然体験をすることができ、子どもたちにとって夏休みの思い出とすることができたのではないのでしょうか。



宮崎ファミリー(電力総連:宮崎浩・真瑛・紘瑛)



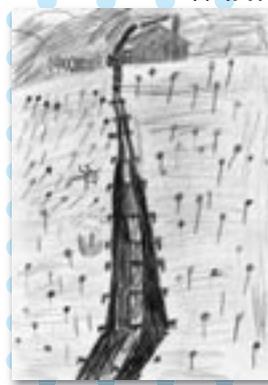
宮崎真瑛



宮崎紘瑛



東電小屋より出発!



木道を歩く歩く!



～男女平等参画トップ宣言～

男女がともに能力を発揮し、責任を分かち合い、ワーク・ライフ・バランスを図りながら、職場でも家庭でも生き活きと暮らすことのできる社会システムづくり目指します。

基幹労連埼玉県本部 委員長 細越 吉彦

ネット21運動 夏休み親子自然体験2013「山の学校inときがわ」

今年も夏休みを利用して親子で自然に触れることにより、自然環境の大切さを学ぶことを目的に比企郡ときがわ町にて「山の学校inときがわ」を開催しました。

今年は、組合員とその家族が対象の『山の学校』を8月10日に開催し、スタッフを含め130名を超える参加がありました。また、翌日11日には埼玉県内に避難されている親子80名を招待し、開催しました。連日続く猛暑日の中、冷たい山水での川遊びには、子どもたちも大人たちも癒されていました。お待ちかねの食事では、バーベキューに加え、避難者団体の一歩会有志の方による浪江焼そばの実演や、開催協力を得ている「ときがわ山里文化研究所」による、流しそうめんなどの催しも行なわれ、子どもたちは大はしゃぎでした。この催しは、今後とも続けていきたいと思ひます。夏休みの思い出づくりとしても、是非ご参加いただきたいと思ひます。



岩城大輔(8歳)

待ちに待った当日、親子ともに5時から目が覚め、持ち物チェックなどして車で出発。「山の学校inときがわ」は、昨年に続き2回目の参加です。川登りの時、子供はゴロゴロの岩の間を先頭グループでどんどん進んでいきます。大はしゃぎでした。川から戻ってのバーベキューでは、「もう食べられない」というほど、おなかいっぱいだったのに、流しそうめんが始まると駆け出していく始末。ほおぼるように食べていました。帰りの車の中では、子供は家に着くまで夢の中でした。親子ともに夏休みの大満足の日になりました。スタッフのみなさん、ありがとうございます。

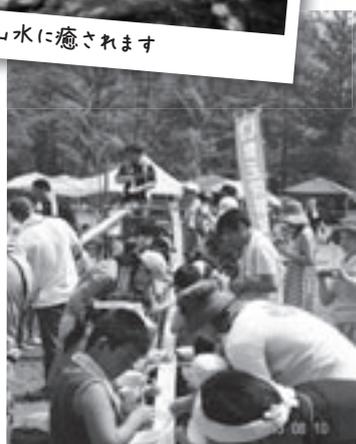
自動車総連:岩城義則



冷たい山水に癒されます



今年もこんなにたくさんの方に参加していただきました!



大好評の流しそうめん



バーベキューもやりました



～男女平等参画トップ宣言～

家庭、地域や職場。どこを見ても、真の男女平等参画とは言い難い状況です。男女がともに理解しあい、支えあう。そんな社会を実現するため、国公総連埼玉は小さなことからコツコツと、着実に取り組んでいきます。

国公総連埼玉 執行委員長 高橋 和哉

9月はメンタルヘルスマン月間として取り組みを強化

今年3月に内閣府が発表した、2012年の全国の自殺者は2万7858人(前年比9.1%減)で15年ぶりに年間3万人を下回りました。自殺者の動機別では「健康問題」(49%、13,629人)が最多となっており、引き続き「職場における心の健康問題(うつ病)」への対応として、メンタルヘルス対策を充実させていくことが重要です。同時に、私たち労働組合の活動の原点でもある「世話役活動」をいま一度見つめ直すことが必要であり、職場の人間関係の構築や労働環境の改善に取り組み、ともに働く仲間から、心の病に悩み、自殺に追い込まれてしまう人が出ないように組織として取り組まなければなりません。そして、家庭においては、家族との心の絆が希薄になっていることに気づかないことが、心の病に気づけない要因でもあることから、職場からの取り組みを強め、組合員自らが、いま一度家族・家庭のあり様を考えていくことが、疲弊した社会から活力ある社会へと立て直す一策と考え、引き続き日本産業カウンセラー協会北関東支部との共催で、「9月10日世界自殺予防デー」に合わせ9月10日(火)～14日(土)迄の5日間、「働く人の電話相談室」を開設します。9月26日(木)にはメンタルヘルス研修会(基礎編)を開催、さらに、厚生労働省のポータルサイト内にある、働く人自身がストレスレベルを知ることができる「5分でできる職場のストレスチェック」をPRし、取り組みを強化していきます。

☆自分のストレスをチェックしてみましょう!

働く人のメンタルヘルス「こころの耳」

5分でできる職場のストレスチェック

HPアドレス

<http://kokoro.mhlw.go.jp/tool/worker/>

モバイルサイトへは、ケータイで右のQRコードを読み取りアクセスしてください。



5分でできる職場の ストレスチェック

このHPによる簡単な質問から職場における働く人自身のストレスレベルを知ることができます。厚生労働省「職場性ストレス対策推進計画(フレッドバックプログラム)」に基づいています。

ストレスチェックを始める

現在予定される9月の日程表です

9月	行事等	
	連合埼玉・事務局	地協・産別・労福協・福祉事業団体・県・上部・外部団体
1日	日	
2日	月	
3日	火	ネットワークSAITAMA21「第3回運営委員会」(13:30～・連合埼玉会議室)
4日	水	男女平等推進委員会「トップセミナー」(13:30～・あけぼのビル)
5日	木	
6日	金	第2回地協議長・事務局長会議(15:00～・あけぼのビル501)
7日	土	
8日	日	
9日	月	埼玉労協協理理事会・役員研修会
10日	火	平成25年第6回埼玉地方最低賃金審議会(異議審) ①運輸労連「第46回定期大会」(10:00～・さいたま市産業文化センター) ②「組づくり・オルガナイザー研修会(フォローアップ編)」(13:30～11日11:00・晴海グランドホテル)
11日	水	政策制度対県要請(11:00～・知事室)
12日	木	第4回ライフサポートステーション運営会議(13:30～・連合埼玉会議室)
13日	金	①2013平和行動in根室(～16日) ②女性委員会第7回幹事会(10:00～・さいたま共済会館) ③女性のためのSTEP UPセミナー<応用編>(13:00～14日11:00・さいたま共済会館)
14日	土	
15日	日	
16日	月	
17日	火	連合埼玉四役研修会(～18日・ホテルヘリテージ)
18日	水	
19日	木	埼玉シニア連合第6回幹事会(14:00～・連合埼玉会議室)
20日	金	第23回チャリティーゴルフ大会(おむらさきゴルフ倶楽部)
21日	土	
22日	日	
23日	月	関東ブロック第23回海外交流視察団(～28日・マレーシア、シンガポール)
24日	火	関東ブロック2013政策フォーラム(13:30～・ラングウッド)
25日	水	電機連合「東日本大震災復興支援第20回チャリティーゴルフ大会」(東松山カントリークラブ)
26日	木	メンタルヘルス研修会基礎編(10:00～17:00・さいたま市民会館うらわ)
27日	金	JAM北関東定期大会(～28日・栃木県)
28日	土	
29日	日	埼玉シニア連合第3回ボウリング大会(10:00～・浦和スプリングレーンズ)
30日	月	

～男女平等参画トップ宣言～

2つの性が平等に助けあい、力を合わせてつくりあげる社会。小さな子どもたちの目が輝く学校、地域から男女平等参画社会がつくられていきます。私たちは小学校、中学校という人生の初めの場面で子どもたちとともに歩む一番近くの大人として男女平等推進のために力を発揮します。

埼玉教職員組合 中央執行委員長 金子 彰

あけぼのビル

事務局長 佐藤 道明

◇心の病 受診2割増

8月22日の朝日新聞朝刊に、「心の病 受診2割増」の見出しが1面トップに記されていた。大手企業の社員が加入する健康保険組合で心の病の受診件数が2008年度から2011年度までの3年間で2割増え、仕事のストレスが原因となる病気が大半を占めている、と言う記事である。

記事を読んでみると次のような内容であった。厚生労働省の「医療給付実態調査」から健康保険組合に加入する働き手本人が心の病で受診した1千人あたりの延べ受診件数をもとに朝日新聞が推計したもので、リーマン・ショックのあった2008年度は1千人あたり延べ235件、3年後の2011年度には280件と19%増加。心の病以外の病気・けが等の受診件数も3年間で8%増加しているが、心の病が倍以上のペースで増加している。

2011年度の心の病の内訳は、うつ病などの「気分障害」が54%と最も多く、パニック障害などの「神経症性障害」とあわせ、長時間労働やストレスと関係が深い病気が8割超を占める。世代別では40歳代が33%と最も多く、30歳代も3割を超えており、働き盛りの年代で受診の多さが目立つ。

◇心の病は他人事?

昨年の自殺者数が15年ぶりに3万人を下回ったことは承知と思うが、自殺対策基本法(2006年)の施行によってタブー視されていた自殺が社会問題として認識されるようになり、さらに、民主党政権において自殺対策に力を注いだことも含め、全国的な自殺対策の底上げがはかられてきた。

しかし、依然として交通事故死者数の約7倍、一日平均70人超が自殺で亡くなっていることを考えれば、決して楽観視できる状況にはない。1人が自殺で亡くなると4～5人が遺族になるため、毎日300人近い人が家族を自殺で亡くしていることになる。自殺による悲しみの連鎖が止め処なく広がっているこの状況を、私たちは無関心でいるわけにはいかない。

「心の病=自殺」とは言えないが、小さな悩みが危機要因に拡大し、さらに悩みの連鎖で複数の危機要因に広がっていく。職場環境の変化、長時間労働などによる過労、失業や就職難、職場の人間関係の悪化、健康

問題、家族間の不和、仕事の悩みや失敗、生活苦や多重債務、育児の悩みや介護疲れなど、私たちの身の回りには心の病を引き起こす要因が溢れている。

◇9月はメンタルヘルスマ月間

連合埼玉では、2010年度から日本産業カウンセラー協会北関東支部と共催で「働く人の電話相談室」を9月10日の世界自殺予防デーにあわせて、5日間実施している。連合埼玉が日常的に取り組んでいる「なんでも労働相談ダイヤル」は、雇用・労働に係わる相談であるが、心の病と思われる相談者も少なくはない。「働く人の電話相談室」は、雇用・労働に係わらず様々な悩みについて、また、「働く人」に限定せずに産業カウンセラーが相談に応じる。今回は9月10日(火)から14日(土)の午前10時から午後10時の間で実施する。小さな悩みを危機要因に拡大させないためにも活用いただきたい。

また、2011年度には9月を「メンタルヘルスマ月間」と定め、働く人の「職場の問題」「メンタルの不調・病気」に関する悩みの解決に向けた取り組みをさらに強化することとした。今年のメンタルヘルスマ月間は、周知のためのポスター・ビラの作成・配布、「働く人の電話相談室」の実施、「メンタルヘルスマ研修会」の開催、ホームページを活用した情報発信等に取り組む。

連合埼玉でも周知している厚生労働省の働く人のメンタルヘルスマポータルサイト「こころの耳」では、働く人のこころの健康に関するさまざまな情報を提供している。サイト内には、簡単な質問から職場における働く人自身のストレスレベルを知ることができる「5分でできる職場のストレスチェック」があり、私も試してみた。結果については、「ストレスの原因因子」「ストレスによる心身反応」「ストレス反応への影響因子」について示され、また、現時点での健康状態に対するコメントもされる。

是非、組合員の皆さんやご家族も含め「こころの耳」を活用し、日々のストレスチェックにこころがけていただきたい。「病は気から」普段からストレスをためこまず、気分転換をはかるようにこころがけることをお勧めします。

2013.8.26

◇働く人の電話相談室

9月10日(火)～14日(土)午前10時～午後10時
フリーダイヤル:0120-583358

◇こころの耳

<http://kokoro.mhlw.go.jp>